

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-176025

(43)Date of publication of application : 24.06.1994

(51)Int.Cl.

G06F 15/21

(21)Application number : 04-323069

(71)Applicant : SEKISUI CHEM CO LTD

(22)Date of filing : 02.12.1992

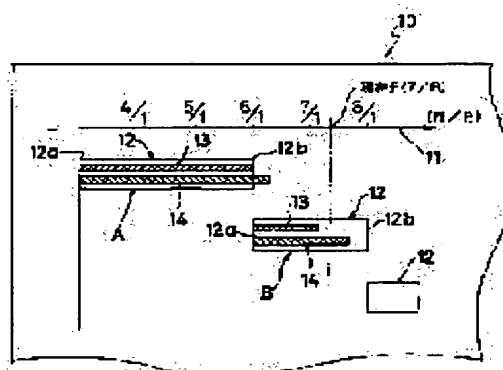
(72)Inventor : IMAMINE HIROSHI
OSUMI ISAO
KOIKE TAKERU

(54) BAR CHART

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide the bar chart by which the cause of fast or slow progress of a plan can be known from display of the progress rate.

CONSTITUTION: This bar chart has a time axis 11 on which dates are displayed, a period display bar 12 which indicates a start period 12a and an end period 12b based upon a plan period corresponding to the time axis 11, a progress rate display bar 13 which displays the progress rate showing how much the plan is achieved in the form of the ratio to the length of the plan period in contrast with the period display bar 12, and a man-hour display bar 14 which displays makeup man-hours to total expected man-hours in the form of the ratio to the length of the plan period in contrast with the period display bar 12.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-176025

(43)公開日 平成6年(1994)6月24日

(51)Int.Cl.⁵

G 0 6 F 15/21

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

R 7052-5L

審査請求 未請求 請求項の数1(全 4 頁)

(21)出願番号 特願平4-323069

(22)出願日 平成4年(1992)12月2日

(71)出願人 000002174

積水化学工業株式会社

大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号

(72)発明者 今峰 博司

茨城県筑波郡谷和原村絹の台3-12-10

(72)発明者 大隅 功

大阪府大阪市平野区平野南1-11-23

(72)発明者 小池 長

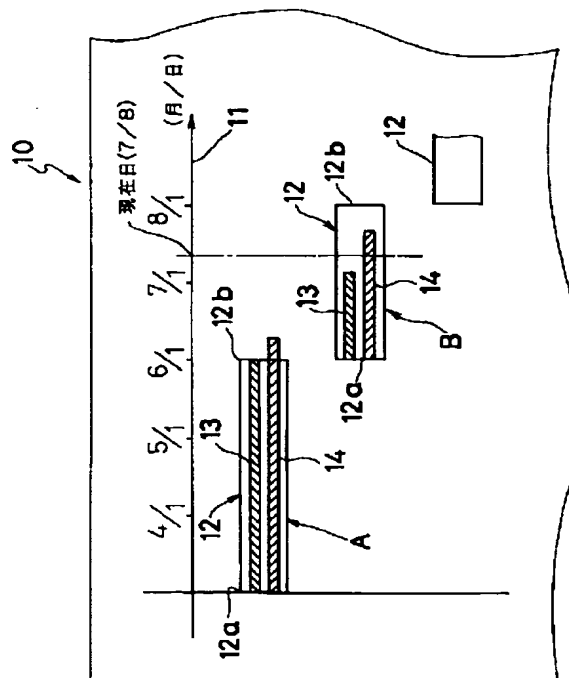
千葉県柏市南柏1-2-7-405

(54)【発明の名称】 バーチャート

(57)【要約】

【目的】 進捗率の表示により計画の進み・遅れの原因を知ることができるバーチャートを提供する。

【構成】 日付けを表示する時間軸11と、計画期間に基づく始期12aと終期12bを時間軸11に対応して表示した期間表示バー12と、計画達成度合いを示す進捗率を計画期間の長さに対する割合で期間表示バー12に対比して表示した進捗率表示バー13と、予想総工数に対する投入済み工数を計画期間の長さに対する割合で期間表示バー12に対比して表示した工数表示バー13とを有する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 日付けを表示する時間軸と、計画期間に基づく始期と終期を前記時間軸に対応して表示した期間表示バーと、計画達成度合いを示す進捗率を前記計画期間の長さに対する割合で前記期間表示バーに対比して表示した進捗率表示バーと、予想総工数に対する投入済み工数を前記計画期間の長さに対する割合で前記期間表示バーに対比して表示した工数表示バーとを有することを特徴とするバーチャート。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、プロジェクト業務の計画管理に使用して進捗状況を把握するためのバーチャートに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、計画の達成度合いを示す進捗率をバー表示したバーチャートが知られている。

【0003】バーチャートにおける進捗率の表示は、着手から完成までの計画全過程を表示する期間表示バーの長さを1とし、このバーの長さに対する比率としてバー表示されており、現在日（進捗集約日）との位置関係によって計画が予定より進んだ状態にあるのか或いは遅れた状態にあるのかの進捗状況を知ることができる。

【0004】類似の工程管理表は、特開昭64-29965号公報に記載されている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、このようなバーチャートにおいては、進捗率の表示により計画の進み・遅れ（進捗状況）を知ることができるが、進み・遅れの原因（工数を投入したのに遅れたのか、工数を投入できなくて遅れたのか等）を知ることが不可能であるという問題点があった。

【0006】この発明は、上記問題点を鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、進捗率の表示により進捗状況の把握と共に計画の進み・遅れの原因を知ることができるバーチャートを提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため、この発明に係るバーチャートは、日付けを表示する時間軸と、計画期間に基づく始期と終期を前記時間軸に対応して表示した期間表示バーと、計画達成度合いを示す進捗率を前記計画期間の長さに対する割合で前記期間表示バーに対比して表示した進捗率表示バーと、予想総工数に対する投入済み工数を前記計画期間の長さに対する割合で前記期間表示バーに対比して表示した工数表示バーとを有することを特徴としている。

【0008】

【作用】この発明に係るバーチャートにより、期間表示バー上の進捗率表示バーから現時点での計画の進捗状況を読み取ることができ、同じく期間表示バー上の工数

表示バーから現時点での予想総工数に対する投入済み工数を読み取ることができるため、進捗状況の把握と共に、工数を投入したのに遅れたのか、或は工数を投入できなくて遅れたのか等の計画の進み・遅れの原因を知ることができる。

【0009】

【実施例】以下、この発明に係るバーチャートの実施例を、図面を参照しつつ説明する。図1に示すように、バーチャート10は、時間軸11と、期間表示バー12と、進捗率表示バー13と、工数表示バー14とを有している。

【0010】この進捗率表示バー13により表示された計画の達成度合いを知ることから、計画の進捗状況を把握することができることから、バーチャート10を使用してプロジェクト業務の計画管理を行うことができる。

【0011】なお、図中には、プロジェクト業務としての基本設計プロジェクトAと試作設計プロジェクトBが表示されている。

【0012】時間軸11は、バーチャート10に横軸として記されており、対象となるプロジェクト業務の遂行予定日数に応じた期間が順次日付け表示されている。

【0013】期間表示バー12は、プロジェクト業務の遂行に要する予定期間（計画期間）に基づく始期12aと終期12bとの間を結ぶ太い帯状に形成されており、時間軸11に対応させて時間軸11と平行に表示されている。

【0014】図中、基本設計プロジェクトAについては、期間表示バー12により、時間軸11の始点を始期12aとして時間軸11の6/1（六月一日、以下同様）を終期12bとする計画期間が表示されており、試作設計プロジェクトBについては、期間表示バー12により、時間軸11の6/1を始期12aとして8/1を終期12bとする計画期間が表示されている。

【0015】この期間表示バー12上には、進捗率表示バー13と工数表示バー14が、期間表示バー12から明確に区別される状態で互いに平行に離間して表示されている。

【0016】進捗率表示バー13は、プロジェクト業務の遂行状況を完了状態に対する現時点での達成割合（計画達成度合い）で示した進捗率を、計画期間の長さに対する割合で期間表示バー12に対比して表示されている。この進捗率表示バー13は、期間表示バー12の始期12aから終期12bに向かって延びる太線により表示される。

【0017】図中、基本設計プロジェクトAについては、達成率100%が、期間表示バー12の始期12aから期間表示バー12の終期12bに達する進捗率表示バー13により表示されており、試作設計プロジェクトBについては、達成率55%が、期間表示バー12の始期12aから期間表示バー12の略中央に達する進捗率

表示バー13により表示されている。

【0018】工数表示バー14は、プロジェクト業務の遂行に要する予想総工数に対する現時点での投入済み工数を、計画期間の長さに対する割合で太線により期間表示バー12に対比して表示されている。工数は、人月の単位で表示されており、例えば1人月の場合、作業員一人で一月分の仕事量を表す。この工数表示バー14は、期間表示バー12の始期12aから終期12bに向かって伸びる太線により表示される。

【0019】図中、基本設計プロジェクトAについては、実際にプロジェクト業務の完了に要した工数（55人月）が予想総工数（50人月）を上回ったために、工数表示バー14が、期間表示バー12の始期12aから期間表示バー12の終期12bを越えて表示されており、試作設計プロジェクトBについては、現在日（7/8）時点での投入済み工数（80人月）のプロジェクト業務の遂行に要する予想総工数（100人月）の割合により、工数表示バー14が、期間表示バー12全体の略80%の位置に表示されている。

【0020】次に、上記構成を有するバーチャートの作用を説明する。

【0021】バーチャート10により、基本設計プロジェクトAについては、進捗率表示バー13から進捗率100%でプロジェクト業務の完了を読み取ることができ、工数表示バー14からプロジェクト業務の完了時に実際の投入工数が予想総工数を上回ったことを読み取ることができる。

【0022】一方、試作設計プロジェクトBについては、期間表示バー12上の進捗率表示バー13が現在日時点に達していないことから、経過日数に比して本来到達していなければならない進捗率に達していないことが読み取ることができ、期間表示バー12上の工数表示バー14が現在日時点を超えて先んじていることから、経過日数に比して予想を上回る工数を投入していることを読み取ることができる。従って、進捗率の表示により進捗状況の把握と共に、工数を投入したのに遅れたのか、*

* 或は工数を投入できなくて遅れたのか等の計画の進み・遅れの原因を知ることができる。

【0023】なお、上記実施例は、単一のプロジェクト業務に対するものであるが、図2に示すように、複数のプロジェクト業務についても同一バーチャート20中に表示することにより、各テーマ（プロジェクト業務）C、D、E間における進捗率の相違や相違の原因、更に工数投入のバランス等を容易に読み取ることができる。また、表示期間を6ヶ月或は12ヶ月等とすることにより、期間目標に対する進捗状況の管理等に活用することができる。

【0024】更に、進捗率或は工数をバーチャートのバー中に表示してきたが、進捗率或は消化率を計画期間の長さに対する比として表示すれば、バーの上下に或はバーとは別に進捗率及び消化率のみを表示したグラフとしても、同様の効果を得ることができる。

【0025】以上、実施例を図面に基づいて説明してきたが、具体的な構成はこの実施例に限られるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲の設計変更等であっても本発明に含まれることは当然である。

【0026】

【発明の効果】この発明に係るバーチャートは、上記構成を有することから、進捗率の表示により進捗状況の把握と共に計画の進み・遅れの原因を知ることができる。

【図面の簡単な説明】

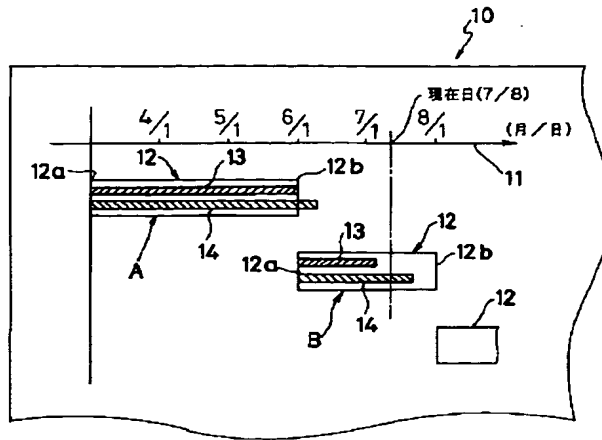
【図1】この発明に係るバーチャートの説明図である。

【図2】バーチャートの他の例を示す説明図である。

【符号の説明】

- 10 バーチャート
- 11 時間軸
- 12 期間表示バー
- 12a 始期
- 12b 終期
- 13 進捗率表示バー
- 14 工数表示バー

【図1】



【図2】

